

【定年後夫婦の家事分担】

夫婦関係において、頭を悩ませる問題のひとつに「家事分担」があります。妻は、家にいるのに「家事をしない夫」への不満がつのり、夫は、家事を手伝いたいの洗濯物をたたみ直されたり文句を言われたりする、というようなことがよくあるのではないのでしょうか。「定年後の夫の家事に関する意識調査」によると、このような結果が出ています。

家事など家のことをやりたいと思っている夫は55%
やりたい気持ちはあるが、できない理由は

- 1位 やり方がわからない
- 2位 キッチンが妻の聖域なので入ると文句を言われる
- 3位 キッチンに2人で作業するスペースが無い



定年退職後の夫に家事をやって欲しいと思っている妻は、約8割（具体的には）

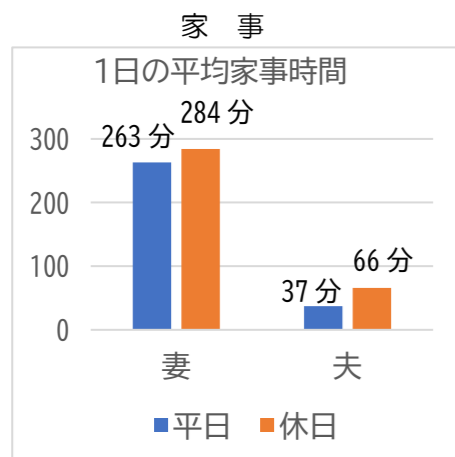
- 1位 ゴミ出し
- 2位 お風呂の掃除
- 3位 掃除機をかける
- 4位 洗濯物の取り込み
- 5位 食器洗い



夫は家事をしたいと思っているもののなかなかうまく出来ず、妻は簡単な事しか任せられないというのが現状でしょう。また、妻は家事を「主体的」に行っているのに対し、夫は「手伝う」という言葉からわかるように「従属的」な関わりとなっていることが多く、家事に対する姿勢を改めて考える必要もありそうです。

【対等な夫婦関係とは】

2人の関係が上下や優劣のある関係になっていないでしょうか。



1日の平均家事時間を見ても、「家事」に関わる時間は大きな差があり、「家事」が妻に偏っていることがわかります。



「収入」では、令和3年の女性の平均賃金は男性の7割という結果が出ています。

【共同参画】令和元年(2019年)12月号
【表3 調査回別に見た夫婦の1日の平均家事時間】より抜粋して作成

「性別役割分業」という、男性は外で仕事を女性が家を守り家事・育児をするという考えが1950年代頃から高度経済成長を支えるために広がったことで、家事は女性がするものという思い込みが生まれました。また、収入の差も関係しているのではないのでしょうか。

そして、たかが呼び方と思うかもしれませんが、夫や妻の呼び方にも関係性が表れます。人に、夫のことを紹介する時の「主人」「旦那」という呼び方は、雇い主と使用人の関係でも使われる言葉であり、妻のことを「家内」「嫁」という呼び方は、妻は家にいるのがあたりまえと思わせる言葉となります。明治時代の民法で制定された「家制度」により、結婚すると妻は夫の戸籍に入り、一家の長である家長（男性）が家族に対して、絶対的な支配権を持っていました。この「家制度」は戦後に廃止されましたが、いまでも慣習などに「家」という意識が残っており、無意識のうちに、夫が「主」で妻が「従」の上下関係になっているかもしれません。

【お互いが良い関係になるために、今からできること】

最近では「名もなき家事」という言葉も広まりました。例えば「ゴミ捨て」では、ゴミをゴミ集積場に行くことだけではなく、家中のゴミを分別しまとめる。ゴミを出した後は新しいゴミ袋をゴミ箱にセットする。そしてゴミ袋の在庫が切れる前に購入する。ここまでする「ゴミ捨て」であるという考え方です。家事をあまりしたことが無い人には、ここまでの工程があることに気づかない人もいます。「ゴミ捨て」にはこれだけの工程があるというのを、夫婦で共有し、その中でできそうな家事を少しずつ分担していくという事から始めるのも良いかもしれません。そして夫は生活の自立を目指し、まずは「自分のことは自分でできるようにする」。妻は、これからは「自分のことは自分で決める」と言う事を大切にしていってほしいと思います。

【これからの夫婦関係のカタチ】

最後に、「卒婚」という夫婦関係を紹介します。

「卒婚」とは、婚姻関係はそのまま夫婦がお互いの自由を尊重して認め合い、干渉せずそれぞれが望むスタイルで生活する夫婦関係のことで「卒婚のススメ」（2004年、オレンジページ）の著者である杉山由美子さんによる造語です。

同居でも別居でも、週末だけ別居あるいは同居などや、それぞれの夫婦に適した生活や家事分担などのルールを取り決めたりと、夫婦毎に様々なパターンが考えられます。子育て期が終わったり定年を迎えたりというタイミングで、家事分担や夫婦のライフスタイルを見直すことで、お互いに程よい距離感が保て、夫婦関係が良好になる可能性があります。

ただ、別居する場合には家賃や光熱費が2軒分かかりますし、趣味や旅行などを自由にするためにも、お金は必要です。夫婦のどちらにもある程度の経済的な余裕があり、家事がひととおりできることがポイントになるでしょう。

<もっと詳しく知りたい方へ お勧め本の紹介／ふらっとねやがわ所蔵>

「女性差別はどう作られてきたか」
中村敏子（2021）
集英社新書

「やってもやっても終わらない名もなき家事に名前をつけたらその多さに驚いた。」
梅田悟司（2019）
サンマーク出版

「卒婚—これからの結婚のカタチ」
杉山由美子（2020）
出版芸術社

【参考文献・URL】

和田秀樹（2020年）「つかず離れず婚」 池田書店
厚生労働省 令和4年簡易生命表の概況 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life22/dl/life22-02.pdf>
「退職リアルライフ調査～団塊ファーストランナーの65歳からの暮らし～」/電通総研 <https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2012060-0529.pdf>
厚生労働省 2022（R4）年 国民生活基礎調査の概況 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>
「定年後の夫の家事に関する意識調査」の概要/旭化成ホームズ <https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/press/20150430.pdf>
共同参画 2019年12月号/内閣府 <https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/201912/pdf/201912.pdf>
2-11 図 男女間所定内給与格差の推移 <https://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/r04/zentai/html/zuhyo/zuhyo02-11.html>